

# グローバル自動運転関連株式ファンド (為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)



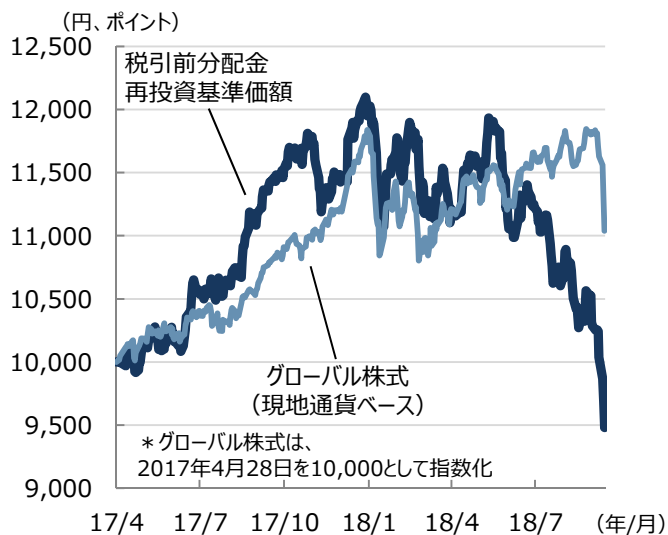
## 足元の運用状況について

平素は「グローバル自動運転関連株式ファンド (為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)」(以下、当ファンド) をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。

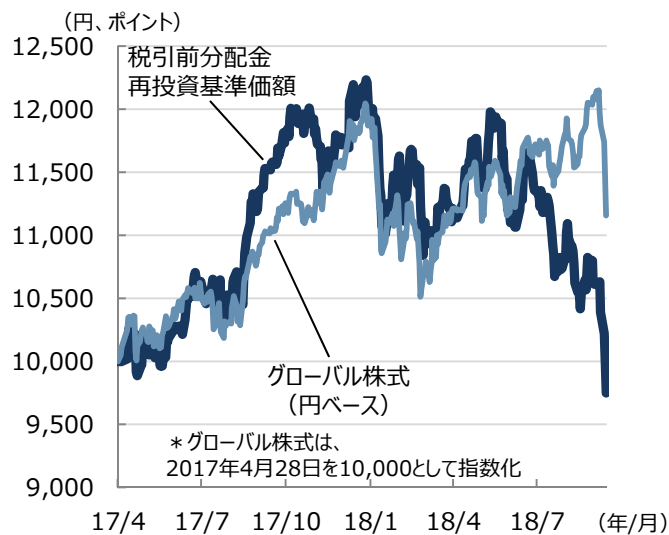
さて、当ファンドは2017年4月28日に設定され、運用を行っています。グローバル株式市場に調整色が出ており、足元の運用状況等について、当ファンドの実質的な運用を担当するニューバーガー・バーマン・グループのコメントを基にご報告いたします。

### 当ファンドとグローバル株式市場の推移

(為替ヘッジあり)  
(2017年4月28日(設定日)～2018年10月11日)



(為替ヘッジなし)  
(2017年4月28日(設定日)～2018年10月11日)



(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。  
 (注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。  
 (注3) グローバル株式はMSCI ACワールド指数(配当込み)。  
 (出所) ニューバーガー・バーマン・グループのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 投資対象とする投資信託の寄与度分析 (米ドルベース) (2018年8月31日～2018年9月28日)

＜寄与度上位銘柄＞						(%)
銘柄名	国	業種	平均 構成比率	リターン	寄与度	
ヴェオニア	スウェーデン	自動車 部品	2.2	10.3	0.2	
デンソー	日本	自動車 部品	1.6	10.6	0.2	
TモバイルUS	米国	通信	2.4	6.3	0.1	
プログレッシブ	米国	保険	1.8	5.2	0.1	
チャイナモバイル	中国	通信	1.6	4.9	0.1	

＜寄与度下位銘柄＞						(%)
銘柄名	国	業種	平均 構成比率	リターン	寄与度	
ローム	日本	半導体	3.2	-18.7	-0.6	
ON セミコンダクタ	米国	半導体	2.8	-13.6	-0.4	
リア	米国	自動車 部品	3.4	-10.6	-0.4	
ピステオン	米国	自動車 部品	1.9	-15.8	-0.4	
ルネサス エレクトロニクス	日本	半導体	1.9	-17.5	-0.3	

(注) 構成比率は当ファンドの組入投資信託をシェアクラスとして含む「オートノマス・ビークル・ファンド」の純資産総額を100%として算出。

(出所) ニューバーガー・バーマン・グループのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

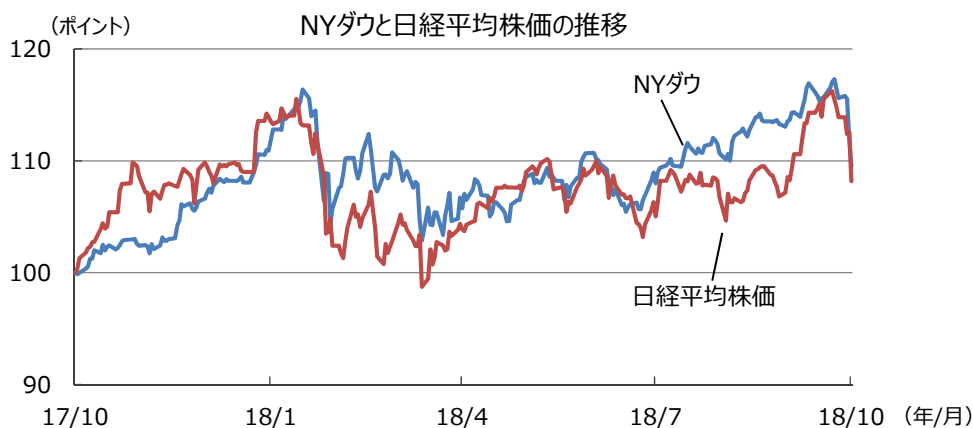
※ 上記は2018年9月28日現在の保有銘柄です。今後も当ファンドにおいて継続して保有するとは限りません。また当該銘柄を推奨するものではありません。  
 ※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。  
 ※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは5ページおよび投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 運用の振り返り（2018年9月）

- 9月の当ファンドの基準価額は下落しました。貿易摩擦問題が企業業績に影響するという懸念から、半導体関連銘柄や自動車部品関連銘柄が下落し、マイナスに寄与しました。
- **半導体メモリや半導体製造装置の大手企業が失望的な業績を発表したことで、半導体市場の先行きに懸念が強まりました。この結果、当ファンドが多く保有する半導体関連銘柄が軟調に推移したことがパフォーマンスにマイナスとなりました。**特に、**ローム（日本）**については月次売上が市場予想を大幅に下回ったこともあり、相対的に下落率が大きくなりました。
- また、貿易摩擦問題の長期化を背景に、欧州自動車メーカー大手の**BMWが業績見通しを下方修正したことが自動車部品関連銘柄にとってマイナス材料**となりました。当ファンドにおいては、**BMW（ドイツ）**を主要顧客として抱える**ピステオン（米国）**や**リア（米国）**などが下落し、マイナスに寄与しました。
- 一方で、6月に自動車部品大手**オートリブ（スウェーデン）**より分社化した**ヴェオニア（スウェーデン）**は、自動車部品関連銘柄が全体的に軟調に推移したにも関わらず、**株価が大きく上昇しました**。同社は車載エレクトロニクス事業を主力とする自動運転関連企業であり、今後の成長性に対する期待が高まったことがプラスに寄与しました。また、自動車部品大手の**デンソー（日本）**の株価も上昇しプラスに寄与しました。為替市場で円安が進行したことが追い風となりました。

## 足元の株式市場の状況

- 10月10日の米国株式市場は大幅な下落となりました。NYダウ等の主要株価指数は3～4%下落し、S&P500種指数の水準は、今年の7月の水準に戻っています。翌11日の日本株式市場も、日経平均株価が一時1,000円を超える下落となりました。
- 今回の米国株式市場の下落要因は、以下の二点が複合的に影響したものと考えています。一点目は米国の金利上昇に対する警戒感が強まっていたことです。9月以降、米国の景気回復や原油高によってインフレ期待が強まっており、長期金利が上昇しました。金利が上昇することで、債券に対する株式の魅力度が低下することから、特に株価バリュエーションが高い銘柄に対する下値警戒感が強まっていたとみられます。
- 二点目は、10月中旬より本格化する米国の7～9月期の企業決算に対する警戒感が強まったことです。9～10日にかけて、塗料大手の**PPGインダストリーズ（米国）**、中堅化学品メーカーの**トリンセオ（米国）**が決算の事前警告を発表しました。また、工業製品・資材の卸業者である**ファスナル（米国）**も、顧客企業の動向に貿易摩擦の影響が見られるとコメントしました。貿易摩擦問題の業績への影響が懸念されたことが、株式市場にとってマイナス材料となりました。
- セクター別では、情報技術や一般消費財サービス、エネルギーといったセクターの下落率が大きくなりました。一方で、ディフェンシブ性が高い公益、生活必需品といったセクターの下落率が相対的に小さい結果となりました。
- こうした中、当ファンドは主に情報技術関連銘柄が影響を受けました。上述の通り、金利上昇を受けた高値警戒感、特にバリュエーションが高いグロース銘柄の下落につながったとみられます。一方で、10月に新規組入れを行った中国の自動運転EV（電気自動車）メーカー**ニオ・インク（中国）**が上昇しました。株式市場が混乱する中でも、同社の成長性に対する関心が高く、逆行高になったものと考えます。



（注）データは2017年10月11日～2018年10月11日。2017年10月11日を100として指数化。

（出所）Bloombergのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

## 今後の市場見通しおよび運用方針

### 今後の市場見通し

- 9月に米国が中国の一部製品への追加的な関税賦課の実施を発表しましたが、中国は報復課税の導入で対抗しました。貿易摩擦に関連するニュースフローは株式市場の関心を集めており、**当面は貿易摩擦問題が株式市場の変動要因になり続ける可能性**があるといえます。
- **企業業績への影響という観点では、貿易摩擦問題における最大の懸念は「関税の引き上げ」ではなく、「貿易条件の見通しが立たないこと」であると考えています。**つまり、グローバル貿易の実務において、関税率の見通しが立たないことで採算が見積もれず、様々な投資の意思決定が先送りされていることが企業業績に影響を及ぼしているといえます。換言すれば、**いったん関税率が決まれば、企業はそれをもとに採算を見積もり、投資等を再開する**と考えています。
- このため、**中長期の観点では貿易摩擦問題による影響は一時的な事象であると考えています。**例えば、自動車は多くの国・地域において人々の移動に必要不可欠であり、自動車に対する消費者の需要が大きく減少する訳ではないと考えます。世界経済が米国中心に底堅く推移する中で、最終製品需要が大きく落ち込むことは想定していません。**一時的な意思決定の先送りは、いずれかの時点で「繰越需要（ペントアップデマンド）」という形で顕在化するものと考えます。**
- 自動運転に関連したニュースやイベントは引き続き注目されています。9月には自動車内装を手がける**トヨタ紡織（日本）**が完全自動運転を睨んだ車内空間のデザインを発表しました。また、中国の自動運転EVの開発・生産に特化した**ニオ・インク（中国）**が米国上場を果たしました。
- **米国の金利上昇や貿易摩擦問題による短期的な影響が出ているものの、自動運転の成長ストーリーに変化はなく、魅力的な投資機会を提供しているものと考えます。**

### 運用方針

- 当ファンドで保有している**ローム（日本）**や**ONセミコンダクタ（米国）**など半導体メーカーの株価は足元で軟調に推移しているものの、両社は競争力の高い製品を提供しています。自動運転技術の進歩に欠かせない中核企業で、中期的な成長が見込めると考え、継続保有する方針です。
- 自動車部品メーカーについては、中長期的な投資魅力に変化はないものの、より魅力的な競合他社や他セクターの銘柄への入れ替えも含めて再検討の余地があると考えています。10月に入り、業績の先行きに不透明感が出てきた**リア（米国）**や**ヴァレオ（フランス）**については全売却しました。また、同様に**ビステオン（米国）**も一部売却しました。
- **自動運転技術のコアとなる要素技術に強みを持つ企業については、中期的な成長ストーリーに変化はなく、割安感が強まっているといえます。**当面は貿易摩擦関連のニュース次第で変動性が高い状況が続く可能性はあるものの、株価や業績動向を見て、買い増しのタイミングを探っていきます。
- **当ファンドでは、貿易摩擦問題の影響が大きい自動車・自動車部品セクターや、アジア地域の投資比率を引き下げてきました。割安感が強まっている銘柄が散見される一方で、11月の米国中間選挙までは通商関連のニュースフローによって変動性が高まる可能性があることから、当面は現状のポートフォリオを維持する方針です。**引き続き、自動運転技術の普及によって恩恵を受ける銘柄を選定し、運用に臨む方針です。

※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※ 上記の今後の市場見通しおよび運用方針は当資料作成時点のものであり、将来の運用成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更する場合があります。

## ファンドの特徴

### 1. 自動運転技術の進化・普及により、業績拡大が期待される世界の企業の株式に投資します。

■自動運転\*の実現に必要な技術を持つ企業に着目します。

\*ドライバー（人間）が行っている様々な運転操作をシステムが行うことを指します。

### 2. 実質的な運用は、リサーチ力に強みのあるニューバーガー・バーマン・グループが行います。

■ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

※投資対象とする外国投資信託の運用は、ニューバーガー・バーマン・インベストメント・アドバイザーズ・エル・エル・シー（米国）が行います。

### 3. （為替ヘッジあり）と（為替ヘッジなし）の2つのファンドからお選びいただけます。

■（為替ヘッジあり）

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。

ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。

■（為替ヘッジなし）

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## ファンドのリスクおよび留意点（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

### 基準価額の変動要因

ファンドは、投資信託を組み入れることにより運用を行います。ファンドが組み入れる投資信託は、主として内外の株式を投資対象としており、その価格は、保有する株式の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化、為替相場の変動等の影響により上下します。ファンドが組み入れる投資信託の価格の変動により、ファンドの基準価額も上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。運用の結果としてファンドに生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、ファンドは**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。ファンドの主要なリスクは、以下の通りです。

※基準価額の主な変動要因として、○株式市場リスク、○信用リスク、○為替変動リスク、○カントリーリスク、○市場流動性リスク等があります。

詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の投資リスクをご覧ください。また、分配金/特定業種・テーマへの集中投資に関する留意事項についても「投資信託説明書（交付目論見書）」の該当箇所をご覧ください。

## お申込みメモ（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

購入・換金の申込受付日	原則として、申込不可日を除きいつでも購入、換金の申込みができます。
購入単位	販売会社または委託会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額となります。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額となります。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目以降にお支払いします。
申込不可日	ニューヨークもしくは香港の取引所またはニューヨークもしくはロンドンの銀行の休業日のいずれかに当たる場合には、購入、換金の申込みを受け付けません。
決算および分配	年1回（毎年4月10日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配方針に基づき分配を行います。 ※ 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
信託期間	2017年4月28日から2024年4月10日まで
繰上償還	委託会社は、受益者にとって有利であると認めるとき、各ファンドの残存口数が10億口を下回るようになったとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、あらかじめ受益者に書面により通知する等の所定の手続きを経て、繰上償還させることがあります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。 ※ 上記は作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。

## ファンドの費用（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

### ① 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に <b>3.24%（税抜き3.0%）を上限</b> として、販売会社がそれぞれ別に定める手数料率を乗じた額。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

### ② 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの純資産総額に <b>年1.2204%（税抜き1.13%）</b> の率を乗じた額 ※ 投資対象とする投資信託の信託報酬等を含めた場合、 <b>年1.8804%（税抜き1.79%）程度</b> となります。
その他の費用・ 手数料	上記のほか、ファンドの監査費用や有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）が信託財産から支払われます。これらの費用に関しましては、その時々 の取引内容等により金額が決定し、運用状況により変化するため、あらかじめ、その金額等を具体的に記載することはできません。

※ ファンドの費用（手数料等）の合計額、その上限額、計算方法等は、投資者の保有期間に応じて異なる等の理由により、あらかじめ具体的に記載することはできません。

## 委託会社、その他の関係法人

委託会社	三井住友アセットマネジメント株式会社（ファンドの運用の指図等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 フリーダイヤル：0120-88-2976 受付時間：営業日の午前9時～午後5時 ホームページ：http://www.smam-jp.com
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（ファンドの財産の保管および管理等を行います。）
販売会社	委託会社にお問い合わせください。（ファンドの募集・販売の取扱い等を行います。）

## 販売会社一覧

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物取引業 協会	備考
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第6号	○		○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号	○		○	○	※1
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第370号	○				
今村証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号	○				
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第6号	○				
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○	
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第52号	○		○	○	
岡三にいかた証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第169号	○				
岡地証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第5号	○				
香川証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長（金商）第3号	○				
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○			○	
木村証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第6号	○				
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2938号	○				
GMOクリック証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第77号	○	○		○	
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第8号	○				
第四証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第128号	○				
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第20号	○				
中銀証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第6号	○				
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○		○	
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号	○	○			
奈良証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第25号	○				
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第75号	○				
野村証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○	
八十二証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第21号	○		○		
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1977号	○				
播陽証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第29号	○				

※1：「グローバル自動運転関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」のみのお取扱いとなります。

## 販売会社一覧

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物取引業 協会	備考
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第152号	○				
フィリップ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第127号	○			○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○		○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第20号	○				
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2336号	○	○	○	○	
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第105号	○	○			
明和證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第185号	○				
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1771号	○				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第8号	○				
株式会社足利銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第43号	○			○	
株式会社大分銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第1号	○				※1
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第3号	○			○	※1
株式会社関西アーバン銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第16号	○			○	
株式会社京都銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第10号	○			○	
株式会社熊本銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第6号	○				
株式会社滋賀銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第11号	○			○	※1
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○			○	※1
株式会社親和銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第3号	○				
株式会社大光銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第61号	○				
株式会社中京銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第17号	○				
株式会社トマト銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第11号	○				
株式会社富山銀行	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第1号	○				
株式会社富山第一銀行	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第7号	○				※2
株式会社南都銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第15号	○				
株式会社百十四銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第5号	○			○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第7号	○			○	
株式会社北越銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第48号	○			○	
株式会社宮崎銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第5号	○				※1
株式会社山形銀行	登録金融機関 東北財務局長（登金）第12号	○				※1、2
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第41号	○				
みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第34号	○		○	○	

※1：「グローバル自動運転関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」のみのお取扱いとなります。

※2：ネット専用です。

## 【重要な注意事項】

- ◆ 当資料は三井住友アセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ◆ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、当資料は三井住友アセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- ◆ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ◆ 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- ◆ 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- ◆ 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。
- ◆ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。